

なかとんべつ 町議会だより

Volume

198

平成29年7月25日発行



5月23日 宗谷管内町村議会議員研修会・交流会
中頓別中学校 文化部による吹奏楽

第2回定例会議決結果の一覧	3
私たちの一般質問	4
議員だより	7
管内議員研修会・交流会開催報告	8
報告事項	9
管内議員研修会報告・議会の動き・編集後記	10



第2回 定例会

平成29年第2回定例会が、6月15日から2日間の会期で開催され、冒頭の行政報告で小林町長から下記2点について報告がありました。

1. 平成28年度国民健康保険税賦課誤りの件について

平成28年度国民健康保険税賦課事務にあたり「課税限度額（医療分・後期高齢分・介護分）」の算定誤りが発覚し、対象者に戸別訪問により謝罪と追加納付をお願いするという不祥事があった。

本件は「行政への信頼を著しく失墜させた行為」であることから、厳しく反省を促し、業務の遂行の改善を図るよう処分を行うとともに、本件の対象となられた方々はもとより、多くの町民の皆様にも多大なご迷惑をおかけしたことに對し、心から深くお詫び申し上げます。

2. 中頓別町立歯科診療所に関する状況について

杉澤宗一郎歯科医師から一身上の都合により契約解除の申出があり、5月31日をもって退職した。後任には占冠歯科医院を開院されていた木村一俊歯科医師が着任し、「己の技術が必要とされるところで役に立ちたい」との思いから、当町での歯科診療に尽力していただくこととなった。当分の間、占冠村の診療所への引き継ぎのため、当町の週末診療に制限がかかるが、6月19日から診療を開始することになっている。

一般質問では、通告順に5議員が質問を行いました。

報告では、平成28年度一般会計予算を平成29年度に繰り越して使う「繰越明許費繰越計算書」のほか、町が資本金を出資している「中頓別観光開発株式会社」、「有限会社中頓別振興公社」の平成28年度経営状況が報告されました。

町長から提案された、町税条例の一部改正、国民健康保険税の一部改正、国民健康保険特別会計補正予算に伴う専決処分の承認3件と、固定資産評価審査委員会委員の選任に伴う承認1件、農業委員会等に関する法律改正により全ての委員が議会の同意が必要となったことに伴う中頓別町農業委員会委員の選任の同意7件、新規条例の制定、条例改正、補正予算を含む7議案を原案可決し、6月16日に閉会しました。

第2回定例会で 決まりました



議決内容

○承認第1号 専決処分承認(税条例の一部改正 3月31日専決)

地方税法等の改正による、住民税関係の特例規定の整備に係る改正、固定資産税関係の特例規定の整備及び軽自動車税の環境性能に心じた軽減等特例の延長に係る改正。

○承認第2号 専決処分の承認(国民健康保険条例の一部改正 3月31日専決)

地方税法施行令の改正による、国民健康保険税の5割軽減及び2割軽減となる所得の範囲の改正。

○承認第3号 専決処分の承認(国民健康保険特別会計補正予算 3月31日専決)

歳入歳出に244万3千円を追加し、総額を2億9千783万円に。

歳出の一般被保険者療養給付費の不足に伴い負担金補助及び交付金を追加するもの。

○承認第4号 固定資産評価審査委員会委員の承認 松田恵裕氏

承認第4号は、辞職に伴い、地方税法第423条第4項の規定により遅滞なく補欠委員を選出し、同条第5項の規定により承認を求めたもの。

(任期 平成29年4月29日)

平成30年12月19日)

○同意第3号から同意第9号 中頓別町農業委員会委員の選任の同意

西一彦氏、藤田健一氏、石井進氏、寺島伸征氏、栗林松三氏、石黒和浩氏、石橋美代子氏

農業委員会等に関する法律の改正により、全ての委員が議会の同意が必要となったことによる選任の同意。

○議案第30号 中頓別町民有林森林整備振興条例

町内の民有林の伐採跡地等の荒廃を防止、森林の公益的機能の向上及び林業振興のために制定。

○議案第31号 中頓別町地域づくり活動支援補助金条例(一部改正)

地域づくりを推進する事業に、さらに調査、研究、研修の取組みを支援するため、補助率、補助限度額を設定。また、規則で規定していた補助金交付決定の取り消し等に関する規定を明記するための改正。

○議案第32号 職員の育児休業等に関する条例(一部改正)

地方公務員の育児休業等に関する法律が改正され、法律上の親子関係に準ずる関係にある子を育成する場合も育児休業の対象とするための改正。

○議案第33号 中頓別町過疎地域自立促進市町村計画の変更

○議案第34号 戸籍事務の一部委託に関する協議

戸籍システムの共同利用に幌延町、猿払村が加わったことによる戸籍事務の規約の改正と協議。

○議案第35号 一般会計補正予算

歳入歳出に4千538万9千円を追加。総額は3億2千800万6千円に。

歳出の主なものは、子育て支援、出生祝金、結婚祝金などのいきいきふるさと推進事業200万円、エソシカ食肉加工処理施設建設に対する地域づくり活動支援補助金965万円(常任委員会に付された補助要件有り)、宗谷5町村による戸籍共同運用事業613万円(総務費) 農業体験交流施設の屋上防水修繕費150万円、有害鳥獣対策費317万円(農業費)

商工業振興対策推進事業118万円、農泊推進事業600万円(商工費)

町民センター中庭屋根修繕工事450万円、学校給食事業554万円(教育費)を追加するもの。

○議案第36号 中頓別町自動車学校事業特別会計補正予算

歳入歳出に41万1千円を追加。総額は3千346万6千円に。施設の修繕費を追加するもの。

ここが聞きたい、知りたい

私たちの一般質問

細谷久雄 議員



質問

●住民参加型のまちづくりの推進を

人口減少に歯止めをかけ、維持可能なまちづくりを実現するには、住民が意欲的にまちづくりに参加できる環境など、住民と行政をつなぐ仕組みを考えることが必要である。町長は住民と行政の「協働」を実現するため、行政組織の在り方と、住民との合意形成、財政運営などをどのように考えているのか伺う。

答 弁 ○小林町長

町は、情報公開と住民参加を基本に町政を運営するという基本理念に立っていかねばならないものと認識している。情報公開では広報やホームページをとおして積極的にまちづくりに関する情報提供できる体制を整えていくとともに、さらなる住民参加を進めていきたいと考える。今後、自治基本条例推進会議による審議を予定しているところであり、そのなかでも検証を求めるとともに、前向き

に改善策を検討していく。

質問

●地元で学べる環境を整え町塾の創設を

子どもたちの放課後や休日の過ごし方、家庭学習のあり方などが「学校だより」などで報告されているが、特に家庭学習の時間が全国、全道と比較すると非常に短いと思う。地元で学べる環境を整え、学力向上のため、町塾の創設について教育長に伺う。

答 弁 ○田邊教育長

家庭学習の時間は、それぞれの学年×10分＋10分を目安としている。小学校では模範となる家庭学習ノートを公開、中学校では学年で家庭学習の目標時間を設定し、一人一人が取り組んだ時間をグラフで表す等、この目安の時間が習慣となることを児童生徒に啓発している。

教員も児童生徒の学力向上に向けて、授業の中で目標を示すことや授業の最後に学習したことを振り返る活動を取り入れ、学習内容の定着に努めている。学力向上には、教員の指導力の向上と児童一人一人が自主的に学習する習慣を身につけることが大切である。

放課後子どもプランでは、毎週、英語や算数教室、学習会を実施しており、参加する児童は、1時間程度の学習時間が確保されている。私は、このプランが地元で学べる町塾として充実することを想い描いている。町塾の創設が学力の向上に寄与することは望ましいと思うが、適切な講師の確保や運営形態等に課題があると考えている。

佐藤奈緒 議員



質問

●放課後子どもプラン送迎バスについて

現在、放課後子どもプラン専用のバスはなく、遠方の児童は親の迎えが必要で、農家の場合だとちょうど仕事の忙しい時間と重なる為にご利用しにくい状況にある。

放課後子どもプラン専用のバスとまではいなくても、小中学校の送迎バスを利用するなど、放課後子どもプラン終了時間に毎日走らせることのできるような時間の工夫ができないか伺う。

答 弁 ○田邊教育長

放課後子どもプラン専用のバスは運行していない。現在、スクールバス(町民センター16時30分発・中学校1便)を利用している放課後子どもプランの登録児童がいる。このスクールバスを利用することは可能。

プランの終了時刻は17時30分で、中学校の2便は18時に中学校を出発する。

このバスを利用する登録児童はいない。このバスの利用は、プランの延長、学校行事によるバス時間の変更や運行しない日がある等の課題がある。

プラン終了時刻に毎日走らせる時間の工夫について、このバスの利用も含めて、必要とされる方と協議したい。

質問

●放課後子どもプランと学校の連携について

毎日の放課後子どもプラン参加人数や参加者の名前など、放課後子どもプランと学校との連携はとれているのか。また、放課後子どもプランでの安全対策や緊急事対応はどうなっているのか伺う。

答 弁 ○田邊教育長

現在、放課後子どもプランに38名の小学生が登録している。この登録児童の名簿は学校に提供している。放課後子どもプランは、毎日、登録児童が活動に出席することが望ましいが、本人や家庭の事情等により欠席することがある。

教育委員会は、毎日、登録児童の放課後子どもプラン出欠の有無を学校と連携していない。放課後子どもプランの指導員は、その日の活動に出席した登録児童を記録している。この児童は、

保護者が迎えに来るまで、スクールバスや放課後子どもプラン終了の時間まで、指導員や補助員が支援を行っている。

放課後子どもプランの活動は、複数の指導員等が見守っており、出席した登録児童の安全対策（安全管理マニュアルによる安全管理）や緊急時対応（保護者の携帯番号等の把握）は、確保されていると認識している。

4月17日に放課後子どもプラン登録児童の一人が、本来であれば放課後子どもプランに行くのに、そうではなかった事を後から連絡を受けている。放課後子どもプランは元々文部科学省にあった児童教室と厚生労働省にあった児童保育を平成28年度から一つにまとめている。本町の安全管理マニュアルは文部科学省の児童教室のものがメインになっているため、放課後子どもプランの指導員はプランに来た児童の見守りを行っている。

学校から外に出たらそこは放課後になるので、学校から放課後子どもプランが行われている町民センターまでの移動の間の連携については、学校と協議することが必要な事項なので即答は控えたい。

宮崎 泰宗 議員



質問

●今年度の行政機構について

平成29年度中頓別町行政機構組織図において、必要性が問われる中で配置された副町長が総務課長を兼務しているのはなぜか。課長職を担う人材が不足しているながら特別職を増やすのは矛盾している。また、なぜ副町長選任の時に、総務課長を兼務すると説明しなかったのか。

今回公表された国保税算定の誤りなどからしても、やはり本町のグループ制は活かされていないと感じる。課を跨る部署間のグループが必要と言うことではないか。

答 弁 ○小林町長

副町長の総務課長事務兼掌については、私自身、望ましい体制だとは思っ

ていない。人材がいなければいけないので、この件については今後の職員配置において遠からず解消できると思う。

副町長選任の際、総務課長との兼務については明確に決めておらず説明できなかった。副町長本人とも協議し、当面は総務課長も担うことにした。事業等に関し、実務にあたる職員の担当状況などを踏まえた人事である。

グループ制については、基本的に課の中で連携を図るものと考えているが、今回発覚した国保税の事故などを反省し、今後の機構改革を改めて考えていきたい。

質問

●町職員の採用について

4月に予定されていた一般職経験採用の詳細を伺う。今後も農業、林業、商工業などの専門性を求める社会人枠の募集を続けていくのか。採用以上に、職員の質の向上が求められているのではないか。新卒採用の今後についても伺う。

答 弁 ○小林町長

4月16日に実施した一般行政職（社会人枠）採用試験では、1名の採用を決定し、6月1日より職務につけている。

指摘のとおり職員能力を高める取組は重要であり、研修会や人事交流な

どを通じて、職員能力の向上に努めていく。

答 弁 ○遠藤副町長

一般行政職では2名受験したが、保育士への応募はなかった。試験の内容については、町村会と同じ、日本人事試験研究センターの問題を採用し、公正に行っている。社会人枠の専門性については今後も求めていくが、今回採用された職員のように、現職の公務員や行政経験者も可とする。ここ数年の新卒採用では、年齢構成のバランスから四大卒を主としてきたが、来年度の採用からは、高卒から大卒まで限定せずに募集する。

質 問

●新たな施策等の現況や今後について
ライドシェアでは、実費負担が変わって利用状況等に変化は起きているのか。

また、今定例会では、エゾシカ食肉加工処理施設の建設に対し、地域づくり活動支援制度から約1千万円の補助金が予算計上されているが、排水や臭気、環境対策は問題ないか。

なかとん牛乳、カップアイスの採算性とブドウ栽培の状況についても伺う。

長寿園では経費削減の一環として、今年度から広報や行事を縮小する半面、

利用者負担については増やしていく方針のことで、サービスの低下を危惧する声もある。また、空床の状況は変わりないか。

答 弁 ○長尾総務課参事

ライドシェアの利用状況について、変更後は減少傾向にあるが、これは5月の連休で電話対応ができなかったことやタクシードライバの優先利用等によるものである。

エゾシカの食肉施設については、庁内の審査委員会で定めた条件に排水などの環境対策も含めており、法的には設備を必要としなくても、沈澱マスを設け、川に流さないなど環境への配慮も求めている。

答 弁 ○平中産業課長

牛乳については基本的に赤字だが、アイスは黒字で利幅が大きい。

醸造用ブドウの試験栽培については、弥生の一般廃棄物処理場近くの町有地と松音知地区で離農した民家の畑で準備を進めており、間もなく定植の予定である。

答 弁 ○吉田保健福祉課長

長寿園の行事縮小等については指導監督の立場から指示したのではない。養護は55名の満床で待機者も数名いる。特養は55名満床のところ50名で待機者はいない。

星川 三喜男 議員



質 問

●企業誘致のその後について

町長は昨年の春に、貝化石を製品化するための企業誘致を表明されたが、その後進展はあったのか。

進出予定企業は、先駆けて民間アパートを建設したが、補助金と企業誘致は関連があるのか伺う。

答 弁 ○小林町長

誘致予定企業は、すでに鉱業権（採掘権）を取得し、現在、林地開発許可のための調査、測量を行っている。工場に関しては、具体的な事業計画の策定に取り組んでおり、施設や設備に関する内容がほぼ固まり、今月中に正式な提出が予定されている。

様々な手続き等に時間を有していることから、実際に施業を行うのは早く

ても平成30年度当初頃になるものと想定している。貝化石の事業と民間アパート建設は別事業であり、補助金との関連はない。

質 問

●台湾との国際交流について

昨年の秋、町長自ら台湾へ出張し、中華大学と協定を結び国際交流をスタートさせた。3月に中華大学関係者が来町したが、その後全く話が聞こえてこないが、今後どのような事業展開を考え動き出すのか伺う。

答 弁 ○小林町長

中華大学生のインターンシップの受入れについて協議を進めており、7月4日から8月10日までの38日間4名の大学生を受入れ、本町の外国人観光客の誘致に向けた対応や観光情報の発信、周辺町村も含めた道北の観光資源の掘り起こしなどを担っていただく予定である。

また、別日程で来町された中華航空関係者との事業展開は、具体的な協議は進んでいないが、今後試験的に本町を中心とした周辺地域でのツアーの検討など、本町にとって有益と見込まれる事業展開ができれば進めていきたいと考えている。

東海林 繁幸 議員



質問

●観光地域づくり振興計画概要から

顧客に対するワングレードアップ提供の具体的対策が見えてこない。

(1) 何をどのようにグレードアップするのか手法を伺う。

(2) ピンネシリ温泉の未来像を具体的に伺いたい。移設するとしたら新たに温泉ボーリングも考慮するのか。

(3) この計画に鍾乳洞の将来の姿が表現されていない。ピンネシリ温泉と町の二大拠点と思うが、何故か。

(4) 観光に対する町民意識の変革を求め、研修、説明会で人づくりを目指すとするが誰が担当のか。

答弁 ○小林町長

(1) 観光振興計画では、本町での滞在を快適に楽しむことが重要と捉え、

宿泊施設の設備改善、観光関連施設の連携を図ることが必要と考えている。

宿泊施設については、「コテージの改修と周辺整備等の検討を進めていきたい。

また、観光関連施設間の連携については、観光地域づくりを進める民間組織を設立し、観光施設の二元的な管理運営と情報発信、マーケティングによる上質な滞在プランの企画販売により、ワングレードアップの上質な滞在スタイルの確立を考えている。本年度は、「コテージ等の改修に係る調査設計の実施」、「暮らし体験フォロアアップ事業」の実施、民間組織設立に向けた協議検討を進める。

(2) ピンネシリ温泉については、老朽化もあり利用者のニーズに合わない設備もあることから、温泉の将来の在り方を見据えた整備を検討する。少人数の滞在型・体験型の観光地を目指す方向で考え、ピンネシリ温泉の再整備等の考え方については今後検討する。

(3) 観光振興計画では、地域全体の課題や問題点を洗い出し、観光客の誘致を進めるための組織の在り方などについて取りまとめている。鍾乳洞は北海道指定天然記念物であり、本町の観光資源として貴重な存在であるとの認識は変わらない。

(4) 観光地域づくりを進める民間組

織の設立に向けた勉強会や説明会の中で、町民の理解と協力をいただきたい。

本年度実施する「暮らし体験フォロアアップ事業」で具体的な方法等は今後検討する。

議員だより ～私の思い～

この「コーナー」は、それぞれの議員が町づくりや議会活動などについて思いを綴るものです。

『みんなの協力がひとつ』

先日、宗谷管内町村議会議員研修会が当町で開催され、管内から議員や議会事務局職員や来賓を含め、107名が集まりました。

研修は「北海道の交通問題を考える」と題して、北海道大学公共政策大学院特任教授 石井吉春氏の講演があり、北海道の様々な現状の課題や将来の展望などのお話がありました。

その後の懇親会には、中頓別ならではのおもてなしで、ギョウジヤニンニクやウド等の山菜の天ぷら揚げの実演、手打ち蕎麦の実演提供など大変喜ばれました。

そして、昨年礼文町での開催時「管内で海がないのは中頓別町だけだ」とこぼしたためか、礼文町の議員から、直前にソイやタコなどの刺身をたくさん送っていただきました。心温まる友情に深く感謝しております。

また、余興のアトラクションとして、中頓別中学校の生徒による吹奏楽やよさこいをご披露いただき、管内の議員からも大変好評をいただきました。出演された生徒の皆さんと準備等にご協力いただいた先生方に感謝申し上げます。

そして、地元食品衛生協会の皆さんや料理実演関係者の皆さん、お手伝いを頂いた町職員をはじめ、山菜採りや準備に頑張ってくれた議員や議員の奥様方のご協力に対し、感謝とお礼を申し上げます。

(綴人・村山義明)



平成29年度宗谷管内町村議会 議員研修会・交流会開催報告

平成29年5月23日、宗谷管内9町村の議会議員が一堂に会する議会議員研修会・交流会が中頓別町民センターで開催されました。

研修会の講師には、北海道大学公共政策大学院の石井吉春特任教授を招き、来賓には北海道議会議員の三好雅氏をはじめ、宗谷総合振興局の渡辺副局長、宗谷総合振興局地域政策課から2名を迎え、町村議員78名、議会事務局員19名、町村議長会事務局2名など総勢107名が参加しました。

研修会では「北海道の交通問題を考える」と題して、石井特任教授から遠距離輸送に効果的な格安航空会社や高速バスの活用を期待を求め、JR北海道の宗谷線の維持問題については、住民が問題意識を持つことが重要と話されました。

町内視察では、中頓別鍾乳洞と郷土資料館の2か所を2班に分かれて行いましたが、あいにくの雨模様のため鍾乳洞の自然ふれあい公園の散策等はずりませんでした。

交流会では、余興に中頓別中学校の生徒による文化部の「吹奏楽」と「よさこい」を披露していただき、大変好評を得ていました。

中頓別町のお土産販売には、中頓別町観光協会と障害者支援施設天北厚

生園の協力をいただき、ハチミツや原木椎茸等を販売し、また、ロビーでは手打ちそばの実演、大ホール後方ではピンネシリ温泉による山菜天ぷらの実演と「チーナドゥ」の料理コーナーなど、本町ならではの思考を凝らした催しが大好評でした。

各テーブルは食品衛生協会参加店による料理で彩り、本町ならではのおもてなしに、参加町村の議員の方々も大変満足された様子でした。

この議員研修会の開催は、各町村持ち回りのため9年に一度の開催となります。来年は豊富町での開催となりますが、豊富町議会事務局からは、大変参考になった反面、非常にプレッシャーを感じていると言っていただけでした。

最後に、今回の議員研修会の開催にご協力頂いた皆様方に感謝申し上げ、開催報告といたします。



議会を傍聴しましょう

議会は、町民の暮らしに直結する税や福祉などの身近な問題を議論する大切な場です。議会では、議会だよりで情報の提供に努めていますが、町政の動きを定例会や各種委員会を実際に傍聴し、自らの目と耳で知ることが大切です。次の定例会は、9月に招集されます。日程は、議会だより臨時号などでお知らせします。

ホームページで議事録などを公開しています

町のホームページ (<http://www.town.nakatombetsu.hokkaido.jp>) で議会だより、定例会の議事録などを公開しています。町ホームページから(議会)へ進みご覧ください。

議会日程や傍聴の手続き、請願・陳情などのお問合せは、Tel6-2244(議会事務局)へ。

報 告 事 項



※ 町が出資する法人等は、毎年度、経営状況を議会に報告しなければなりません。

報告第2号 有限会社中頓別振興公社の経営状況報告

寿レクリエーション施設、一般廃棄物処理施設、鍾乳洞ふれあい公園、国保病院管理清掃、有害鳥獣処理施設業務等を営む同社全体の平成28年度決算状況は次のとおりです。

当期純利益が313,018円となりました。

●損益計算結果、貸借対照表

・収益合計	69,741,379円
・費用合計	69,256,353円
・営業利益	485,026円
・当期純利益	313,018円
・資産合計	20,184,850円
・負債合計	3,717,374円
・純資産合計	16,467,476円



※ 繰越明許費（くりこしめいきよひ）は、予算に計上されているが、年度内に支出が終わらないと見込まれるものについて、予算に定めることにより、翌年度に繰り越して支出することができるものです。

報告第1号 平成28年度一般会計繰越明許費繰越計算書の報告

平成28年度から29年度に次の事業予算が繰り越されました。

(単位：千円)

事業名	繰越金額
通知カード・個人番号カード 関連事務委託事業	144
教員住宅建設事業	77,528
合 計	77,672

※ 町が出資する法人等は、毎年度、経営状況を議会に報告しなければなりません。

報告第3号 中頓別観光開発株式会社の経営状況報告

ピンネシリ温泉の平成28年度決算は、前年度に比べ宿泊者で657人増加、入館者で1,200人増加。当期純利益が3,887,826円となり、昨年度に引き続き黒字決算となりました。

●損益計算結果、貸借対照表

・収益合計	47,090,079円
・費用合計	43,124,719円
・営業利益	3,965,360円
・当期純利益	3,887,826円
・資産合計	15,495,986円
・負債合計	6,866,637円
・純資産合計	8,629,349円

●利用状況

・宿泊者数	3,701人 (前年度 3,044人)
・入館者数	11,601人 (前年度 10,401人)
・会食利用件数	74件 (前年度 42件)
・利用人数	1,245人 (前年度 642人)
・イベント利用人数	428人 (前年度 0人)

議会の動き

4月

- 1日 平成29年度中頓別町自治記念式
- 10日 議会広報編集特別委員会
- 17日 議会広報編集特別委員会
- 18日 宗谷町村議会議長会定期総会（稚内市）
- 23日 2017年中頓別町故郷会（東京都）
- 28日 中頓別町観光協会通常総会

5月

- 10日 中頓別町農業協同組合通常総会
- 18日 中頓別町商工会通常総会
- 20日 中頓別町自衛隊協力会通常総会
- 21日 中頓別消防団春季消防演習
- 23日 宗谷管内町村議会議員研修会（中頓別町）
- 27日 開校70周年記念中頓別中学校大運動会
- 27日 中頓別観光開発株式会社定期株主総会
- 29日 中頓別町育英会総会
- 31日 議会運営委員会

6月

- 1日 天北地域生活交通確保対策協議会及び稚内音威子府間「命をつなぐ街道」整備促進期成会総会（浜頓別町）
- 4日 中頓別鍾乳洞芝桜まつり
- 5日 議会運営委員会
- 12日 中頓別小学校運動会
- 13日 北海道町村議会議長会定期総会（札幌市）
- 15日～16日 第2回定例会
- 19日 戦没者慰霊祭
- 24日 認定こども園運動会
- 30日 議会広報編集特別委員会

7月

- 4日～5日 全道町村議会議員研修会（札幌市）
- 7日 議会広報編集特別委員会

宗谷管内町村議会議員研修会報告

5月23日、宗谷管内町村議会議員研修会が本町町民センターで開催され、当町からも全議員が出席し、北海道大学公共政策大学院の石井吉春特任教授が「北海道の交通問題を考える宗谷地域における公共交通の現状と課題」と題した講演を聴講しました。

石井特任教授からは、北海道は広域分散型の都市構造になっており、遠距離間の輸送は航空機が担うのが最も効率的とし、格安航空会社（LCC）の活用を強調されました。

また、JR北海道が「単独では維持困難」とした石北線や宗谷線などにも触れ、この2区間だけで赤字が年間61億円に達していると説明。「住民に問題意識を持ってもらえるよう知恵を出してほしい」と呼び掛けられました。

しかし、鉄道もなく、空港からも遠い我が町にとって、宗谷線が存続されても、LCCが就航したとしても、地域交通の問題は解決したとは言えず、町村ごとの独自の対策が求められると感じました。

講演終了後、郷土資料館と中頓別鍾乳洞を視察していただき、同会場にて交流会が行われました。

開催町として、落ち着いて交流することはできませんでしたが、9年に一度の当町での研修会が滞りなく、おもてなしの心を持ってできたことは中頓別町議会としても成功したと思います。

最後に、当日ご協力を頂きました町内関係者の皆様、また、会場のお手伝いをして下さった町職員の皆様に感謝を申し上げます。

（報告者：長谷川 克弘）

編集後記

北海道の短い夏が近づいています。気温の変化が大きく暑かったり、寒かったりと体調管理に気を配らなければならぬ年となっておりますが、いかに過ごしていきましょうか。

いつも議会だよりをご覧いただき大変ありがとうございます。広報編集特別委員一同、心を込めて、見やすく、読みやすい紙面を目指し編集に取り組みしております。今後とも、より多くの町民の皆様にご覧いただきたく思います。

また、今後は住民の要望、ご意見を取り入れ、一年後、二年後を見据えた未来志向の議会だよりになればと思っておりますので、町民の皆様のご意見・ご要望をお待ちしております。

議会は、「批判・監視の府」と言われ、議員は生活環境権を守り、質問をとおして行政の執行ぶりを批判し、事務・事業の管理・議決の執行、出納、政策を論じ合い、質し、補い、公正にして能率のよい行政を確保するように、住民の期待に応え、一層の地域社会の発展に寄与貢献しなければなりません。

住民の声を、どんな小さな声もしっかり聞いて、捉えて、まちづくりにつなげていく、これが議員・議会に与えられた使命ではないでしょうか。選挙の時だけ顔が見えていれば良いのではなく、いつも見えて、声が聞こえて、繋がっている初めて自分達の代表ということが分かってもらえるのではないかと。

今後、町行政が抱える諸問題の解決と安全・安心な生活ができる町づくりに向けて、全力で取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。